

## 事前にいただいた質問票による質疑の概要

東京電力株式会社  
柏崎刈羽原子力発電所

- ご質問が刈羽会場と柏崎会場のどちらでいただいたものかを、で表記しています。
- 柏崎会場では、時間の都合により一部のご質問にお答えできませんでした。その回答については、**(31日未回答)**と表記しています。

### 《福島第一・第二原子力発電所の状況について》

ご質問：福島第一は多重防護なのになぜ炉心が融けたのか。

回答：津波によりすべての交流電源が使えなくなりました。原子炉は停止した後も残留熱を冷やす必要がありますが、電源がなくなったことから冷やすための注水が継続できませんでした。燃料は解析では2800℃で融けることとなります。

ご質問：1～3号機は地震後に原子炉の水位が下がっているが、地震の揺れによる配管破断ではないのか。

回答：地震で原子炉が自動停止することにより、沸騰が収まって水位が下がるのは通常の挙動です。

ご質問：2号機は圧力抑制室が地震動で破損したのではないのか。

回答：2号機は地震による原子炉停止後、高温の蒸気が圧力抑制室で凝縮しており、地震直後は正常に機能していたと判断しています。

ご質問：5月28日と29日に福島第一の5号機で問題があったというが、どのようなことか。

回答：5号機の残留熱除去系の仮設ポンプが一時停止しましたが、予備品と交換して冷却を再開し、冷温停止を維持しています。

ご質問：今回の事故は人災か、天災なのか。誰の責任か。被ばく者が出ているが作業体制はどうなっているのか。

回答：今回の事故は、地震随件事象である津波という天災により引き起こされたものと考えています。ただし、問題はこの地震・津波を予め予測できたかということです。津波の高さの想定が小さかったというのは事実であり、そういう観点で反省はあります。また、運転員の操作が適切だったかということについては、社外や海外の専門家の判断に委ねたいと考えています。

ご質問：福島第一の5、6号機は非常用ディーゼル発電機が1台動いたということだが、海水系のダウンによりトリップするはずである。どうやって冷却を確保したのか。

回答：当該のディーゼル発電機は水冷式ではなく、空冷式であったため起動しました。

ご質問：炉心溶融で格納容器と圧力容器はどうなっているのか。また、滞留水はどうなったのか。

柏崎会場

回答：注水によって原子炉底部の温度が上下する、あるいは温度計がきちんと温度を表示していることから、圧力容器に小さい穴は開いているかもしれませんが、大部分の燃料は圧力容器の底部にとどまっているのではないかと解析から考えています。

ご質問：非常用ディーゼル発電機は福島第一ではタービン建屋に、福島第二では原子炉建屋に設置されていたことが事故の状況を分けたのか。柏崎会場

回答：津波の高さが福島第一は14m、福島第二は7mであり、この違いが要因だと考えています。

ご質問：壊れた原子炉は最終的にどうするのか。柏崎会場

回答：福島第一の1～4号機については廃炉にします。

ご質問：海水を入れると原子炉は二度と使えないということなのか。注入する時にそれを考えたのか。

柏崎会場

回答：海水を注入すると使えないと決まっているわけではありませんが、現時点で福島第一の1～4号機は原子炉の状況を考え、廃炉にする方針です。

ご質問：メルトダウンは震災直後からわかっていたのではないのか。正しい情報が欲しい。柏崎会場

回答：交流電源が無い中で原子炉への注水等の状況を我々も正確に把握できなかったために、情報が遅くなったことにつきましてはお詫びいたします。今後、状況を取りまとめ、どのような状況だったのか公表したいと考えています。

ご質問：メルトダウンはいつ起こって、東京電力はいつ分かったのか。柏崎会場

回答：水素爆発などにより炉心の損傷については予想していましたが、解析で分かったのは1号機で5月15日です。その解析のためのデータが揃ったのは5月初旬であり、2、3号機の解析結果が出たのは23日です。

ご質問：ベントが遅れた理由は。柏崎会場

回答：現場では早くやろうと努力していましたが、例えば余震が続いたために屋外に出られず、また、電源が無い状態で電磁弁を開けるためにバッテリーのつなぎこみ作業が必要になった等、結果として時間がかかりましたが、不適切な対応は無かったものと思っています。

ご質問：地震発生後の5日間の未公開データの責任は。いつ発表されるのか。柏崎会場

回答：モニタリングデータに関する件であれば、地震以降に公表していた10分毎のデータ以外に2、3分間隔のデータがあることがわかったことから公開したものです。

ご質問：今回の事態を踏まえ、消防、自衛隊、米軍の緊急出動態勢はどうなっているのか。柏崎会場

回答：法律に基づき、総理大臣が緊急宣言をして緊急時対応センターを召集し、その中で必要な組織が連携して対応することとなります。

ご質問：無人ロボットの初動体制は。 **柏崎会場**

回答：震災当時、無人ロボットはありませんでした。電源が喪失していた時点では、圧力・温度を測る手段にも事欠いていたという状態でした。

ご質問：フランス・アレバ社の汚染水処理により、廃棄物が出るのではないかと。 **柏崎会場**

回答：汚染水処理装置から出てくる放射性廃棄物については、密閉された容器や建屋の中に閉じ込められるよう設計しています。

ご質問：1号機のフランスの循環注水冷却の技術についてはどうなっているのか。これがうまくいくようにするのは大切なこと。 **柏崎会場**

回答：できるだけ早く循環注水冷却となるよう、最大限の努力をしています。

ご質問：使用済燃料プールへの注水はあふれないのか。 **柏崎会場**

回答：プールからあふれた水を受けるタンク（スキマサージタンク）があります。そのタンクの水位計は正常に動作しており、あふれる前に注水を止めることができます。

ご質問：汚染水の漏れたところは分かったのか。 **柏崎会場**

回答：汚染水が発生した場所は原子炉建屋内ですが、放射線量が高く特定できていません。

ご質問：今回の地震で損傷を受けたのは、送電線以外に何があったのか。 **柏崎会場** (未回答)

回答：開閉所の気中開閉装置や 中央操作室の照明カバーが外れるなどの損傷が確認されています。安全上重要な設備（制御棒駆動機構や非常用ディーゼル発電機など）は、地震に対して健全性を維持したと考えておりますが、引き続き調査を行ってまいります。

### 《放射性物質の漏えい関連について》

ご質問：周辺町村に撒き散らした放射能の回収は、いつからはじめのるか。 **刈羽会場**

回答：現在はいかに放射能を放出させないかということに全力を傾けています。回収については今後、国と相談して計画してまいります。

ご質問：福島で高い放射能の下で働く方々の環境が劣悪であるとの報道に心が痛む。若い人たちを使わず東京電力を退職した人たちの力を借りて、次の世代に放射能の禍根を残すことのないような配慮はできないか。 **刈羽会場**

回答：被ばく線量限度を250mSv（ミリシーベルト）として、放射線量を管理しながら作業を進めています。事故発生直後は、外部からの線量を測定する装置（APD）が不足し、代表者を測定して、その値を全員に用いる時期はありました。内部被ばくについては、測定する装置（WBC）で測定していますが、まだ全員の測定が出来ていない状況です。WBCを増やすとともに、当所でも測れるように計画しており、なるべく早く実施したいと思います。

ご質問：福島第一の敷地内では、どんな放射性核種が検出されているのか。 **刈羽会場**

回答：ランタン、バリウム、テルル等のほか、セシウムについても137の他にセシウム134、136などが検出されています。

ご質問：福島放射線量が減少しているというが、詳しく聞きたい。柏崎会場

回答：(実際のデータを用いて、線量が低下傾向であることを説明しました)

なお、放射性核種でヨウ素131やセシウム134、137などが検出されていますが、これらには半減期があって、性質上必ず徐々に下がります。

ご質問：4km圏内に住んでいたが、戻れるようになるにはどのような除染を行うのか。柏崎会場

回答：ご迷惑をおかけし、申し訳ありません。少しでも早く放射性物質を減らすとともに、建屋に覆いをかけるなど、外に出さないようにしたいと考えています。

放射性物質の除染は行っていく計画ではありますが、具体的な方法等について国と相談しながら進めることとなります。その内容については、いずれ公表してまいります。

ご質問：どれだけの放射性物質を出したのか。柏崎会場

回答：申し訳ありませんが、放射性物質の総量は正確に確認できていません。今後しっかり評価を行い、お示ししてまいります。

ご質問：被ばく限度(250mSv)まで被ばくしていいという発想が間違っている。柏崎会場

回答：限度まで被ばくしていい訳では全くありません。放射線が体に害があるということを前提にしており、作業において少しでも量を減らすための努力をしています。

### 《福島の見通しについて》

ご質問：被害の補償の考え方について聞きたい。柏崎会場

回答：当社は会社を挙げて補償してまいります。まだ事態が収束していないので全体がつかめていませんが、国からご支援をいただきながら、検討してまいりたいと思います。

ご質問：避難者支援より社員の待遇を優先しているのではないかと。

J Aの損害賠償について請求額の50%を補償するという根拠は。刈羽会場

回答：1世帯100万円として仮払いを順次しており、これまでに請求いただいた方にはほぼ100%振込み済みです。補償はこれが全てではなく、今後、本補償として一人ひとりの損害に対して誠意を持って対応してまいります。

J Aへの補償の50%の根拠は仮払いの位置付けであり、政府の定めた指針により、今後しっかりお払いしてまいります。

なお、社員・役員の給与・報酬を削減し、人件費の抑制をしており、会社全体のコストダウンを行ってまいります。

ご質問：リストラが足りないのではないかと。柏崎会場

回答：社員の給与や役員の報酬カット、当社所有の資産売却など、精一杯努力してまいります。

ご質問：今回は異常な天災であり、賠償も法律上、免責されるべきではないかと。柏崎会場

回答：結果として当社が招いた事故であり、多くの方にご迷惑をおかけしていますので、当社として出来る限り補償していきたくと考えています。

ご質問：工程表通り収束するのか。双葉町に住んでいるが何年くらいで帰れるのか。[刈羽会場]

回 答：道筋でお示しているように、まずは冷やす・放射性物質を管理するといった2つのステップに全力を尽くしてまいります。その収束をもって、周辺環境などの分析をしなければなりません、現段階では具体的な年月について申し上げることは難しいと考えています。

ご質問：大熊町から柏崎へ避難しているが、何年待てば安全に暮らせるのか。[柏崎会場]

回 答：大変申し訳ありません。事故の収束に向け、原子炉と使用済燃料プールの冷却、放射性物質を抑制することに全力を尽くしています。また、放射性物質の除染など最大限の努力をし、避難されている方々が一日も早くご帰宅できるようにするのが我々の使命です。具体的な時期については、申し訳ありませんが、明確にお答えできません。

ご質問：明確に回答できる日程はないのか。[柏崎会場]

回 答：お知らせした道筋に従い、ステップ1で3ヶ月、ステップ2でその後3～6ヶ月間で当社がやるべきことをきちんと行うことで、1日も早い避難されている方のご帰宅に結び付けたいと思っています。進捗状況については1ヶ月ごとに示してまいります。

ご質問：現場で働く作業員に対して、手厚い待遇が必要ではないか。[柏崎会場]

回 答：福島第一の作業環境等は決して良い状況ではありません。これから夏に向け休憩所や食事、睡眠、シャワーの設備が必要であり、鋭意準備しているところです。

ご質問：福島に防潮堤は造るのか。[柏崎会場]

回 答：原子炉の冷却、滞留水の処理、使用済燃料の冷却などとともに、工程表に沿って同時平行で進めています。

ご質問：福島の余震に対する津波を10mとした根拠は。[柏崎会場]

回 答：余震対策として、海際では7～8mの津波を想定しています。福島第一の1～4号機では津波が上がってくることが考えられるので、3～4mの防潮堤を設置するものです。

### 《柏崎刈羽原子力発電所の安全対策について》

ご質問：福島第一の原因究明は、柏崎刈羽に反映されているのか。[刈羽会場]

回 答：全交流電源の停止に備え、緊急安全対策として電源車と消防車を配備しています。また、それらを用いた訓練を実施し、有効性を確保しています。

ご質問：15mの防潮堤では甘くないか。20mは必要なのではないか。[刈羽会場]

回 答：東北地方太平洋沖地震の津波は、太平洋プレートがもぐり込むことにより起こったものであり、日本海側では同様なもぐり込むプレートはないと考えられます。しかしながら、想定を超える津波が起こることを考慮して15mとしました。

ご質問：日本海には太平洋側と同様の津波が来ないと言っているとまるで津波を想定していないように聞こえるが、どのくらいの津波を想定しているのかはつきりさせるべき。[刈羽会場]

回答：想定を超える津波が起こることを考慮して、15mの津波に備えた防潮堤を造る予定です。

ご質問：これまでに新潟県へ大きな津波が来たことがあるのか。[柏崎会場]

回答：過去に新潟地震や北海道南西沖地震などで新潟県内でも津波を観測しています。ちなみに新潟地震の時に柏崎では1.5mの津波を観測しました。

ご質問：柏崎刈羽でも大津波を起こす地震は起こらないのか。[柏崎会場]

回答：これまでに柏崎刈羽では3.3mの津波を想定しましたが、これは日本海の領域で柏崎刈羽に最も影響を与える地震を想定し、評価したものです。過去の新潟地震の津波を超えるものを想定しています。

ご質問：地震後に発電所内の道路が陥没したり、ガレキなどで電源車や消防車が通行不能になったりすることはないのか。[刈羽会場]

回答：新潟県中越沖地震では、掘削後に埋め戻した箇所が変位を起こしたことから、重要な道路では耐震強化を行い、更に構内に碎石を蓄えて陥没時にも通行が確保できるようにしました。また、がれき除去車は3立方メートル程度のものが除去できますので、これにより発電所構内の道路の片側1車線を確保できるものと考えています。

ご質問：がれき撤去車はなぜホイール式なのか。[柏崎会場]

回答：早く現場に行けるよう機動性を重視して、大きなホイール式になっています。

ご質問：貯水池は地下に造るのか。[柏崎会場]

回答：敷地の中ですが地下ではなく、高台に設置することで検討しています。

ご質問：津波の浸水と遡上の違いは何か。[柏崎会場]

回答：例えば遡上は坂道を水が駆け上がっていくようなものです。リアス式海岸などではエネルギーが集中して大きな遡上になります。浸水は建物の周り一様に水が入るようなことを言います。

ご質問：防潮堤の規模はどのくらいか。[柏崎会場]

回答：防潮堤は発電所の敷地前面の陸地に設置することを検討しています。長さは北側で約400～500m、南側で約800mを考えており、高さは標高15mで検討を進めています。なお、防潮堤の外側には敷地内に林があることから、周辺に大きな影響を与えることはないと考えていますが、今後も検討してまいります。

ご質問：津波の高さの想定は3.3mで大丈夫か。[柏崎会場]

回答：日本海側では大きな津波が発生するプレートが沈み込むような地震はないと言われていますが、過去の地震などを踏まえて、最大限の波源を想定し解析して3.3mと評価したものです。

ご質問：5～7号機の防潮堤は盛り土で大丈夫なのか。柏崎会場

回答：5～7号機側は海拔12mになりますので、3mの盛り土にしかるべき強度を持たせることにより、津波の力に対抗できるものと考えています。

ご質問：津波で地下の構造物が壊れないのか。柏崎会場

回答：津波は地表を伝っていくので、地下の構造物に影響はないと考えています。

ご質問：太平洋側で津波が起こることは承知していたのに、対策が甘かったのではないのか。柏崎会場

回答：太平洋側で起こる地震の規模が国や関係機関で定められており、その影響について想定したものです。今回の地震でその領域が連動したことから発生したために大きな津波となったものです。

ご質問：柏崎刈羽の想定は今後マグニチュード8.0で大丈夫なのか。柏崎会場

回答：発電所周辺の活断層の調査を陸域や海域で行い評価していますが、長岡平野西縁断層帯では、安全側に考慮して、複数の断層が連動した場合を想定しています。

ご質問：津波と地震の関係はどうなっているのか。柏崎会場

回答：津波は海底の地震で海面が盛り上がり起こります。陸側で起こる地震では津波は発生しません。

ご質問：想定外のことが起きる地点の立地は、不適切なのではないか。柏崎会場

回答：今回の津波は太平洋の広い領域で連動して発生しています。この知見を反映して、安全対策をしていきたいと思えます。

ご質問：返し波と引き波の対策はどうなっているのか。柏崎会場

回答：防潮堤の目的はプラントを津波による衝撃から守ることです。一方、防潮堤を造ることにより、プラント側に水が浸ることも考えられますが、その対策についても検討しています。  
また、海水系のポンプが健全な状態で運転中の場合には、引き波により取水できない可能性があるため、一時的にポンプを停止するなどの措置を講じます。

ご質問：福島県議が大津波を警告していたのに、無視していたのではないのか。柏崎会場

回答：各界で津波の可能性が言われていましたが、決して無視していたわけではなく、調査をしていて津波対策を検討しているところでした。今回の津波も踏まえて、対策についてしっかりと検討してまいります。

ご質問：大きな津波が来ることを想定すべき。また、事故の根本原因を調査すべき。柏崎会場

回答：今後きちんと評価してまいります。また、国や学会などでも検討調査することになります。

ご質問：1～7号機のタービン建屋の防水化はしないのか。柏崎会場 (未回答)

回答：現在、緊急時対策の更なる信頼性向上を目指し、電源機能等が喪失した時の安全確保のために重要機器が設置されている原子炉建屋を中心に、止水（防水）対策を実施しています。また、タービン建屋等から原子炉建屋に浸水しないよう、建屋内の扉および配管等の貫通部について止水（防水）対策を実施しています。

ご質問：電源車の耐久性は。柏崎会場（未回答）

回答：電源車は市販のトラックをベースにディーゼル発電機を搭載したものです。ディーゼル機関（エンジン）はオイルの補充などの適切なメンテナンスを実施した上で1ヶ月以上運転した実績があり、十分耐久性があるものと考えております。

ご質問：訓練は定期的に行うべき。行う場合は公開して欲しい。柏崎会場（未回答）

回答：訓練は反復することが重要であり、今後も定期的の実施してまいります。これまで行った訓練については公開しており、今後も検討してまいります。

ご質問：電源の確保について分かったが、配管ダクトの修理や予備の確保はできているのか。また、それらに不具合があったとき、100%手動で出来る手段を考えているのか。

柏崎会場（未回答）

回答：注水配管についても蒸気タービン駆動ポンプ、ほう酸水注入系ポンプ、補給水系ポンプなどそれぞれ別々の経路を確保しています。

さらに、補給水系ポンプに加えて消防車を配備するなど、単一の機器が作動しない場合でも対応できる手段を確保するよう考慮しています。また、電動駆動の弁については、手動でも操作が可能です。

ご質問：強化だけでなく、壁にジャンクション（フレキシブル化）すべきでは。柏崎会場（未回答）

回答：対策には壁にジャンクション（コネクション）を付けるなど、迅速性を考慮して実施してまいります。

ご質問：定期検査で停止しているときをチャンスと考え、対策が機能するかどうか確認して欲しい。

柏崎会場（未回答）

回答：定期検査の時期を活用して、積極的に諸対策を実施してまいります。

## 《その他全般について》

ご質問：上越市や長岡市でも説明会をすべきではないか。刈羽会場

回答：これまで特にお世話になっている地元の柏崎刈羽地域の皆さまを対象に、説明の機会を設けさせていただきました。県内についてはマス媒体の活用などにより、様々な形で当社からの情報発信に努めてまいりたいと考えています。

ご質問：福島第一を沈静化できない東京電力に柏崎刈羽を運転する資格は無い。刈羽会場

回答：ご心配をおかけしており、大変申し訳ありません。事態の安定化に向けて最善を尽くしており、一歩ずつ収束に向けて取り組んでまいります。

ご質問：メルトダウン含め、福島第一に関する発表は信用に欠ける。トラブル隠し以降、東京電力の隠蔽体質は改善されていない。改善策はないのか。【刈羽会場】

回答：ご指摘は厳しく受け止めます。収束に向けて現場では努力・苦勞しています。なるべく早く状況を把握して、評価することを心がけていたつもりですが、震災直後は日々状況が変わりました。その後ようやく収束の道筋を発表するとともに、事故当初のデータを収集して分析できるようになってきました。情報を隠すことはまったく考えていませんが、タイミングや中身をしっかりと説明するように努めてまいります。

ご質問：このような重要な会に社長が来ないのはなぜか。【刈羽会場】

回答：当社の全役員が手分けをして事故の収束や補償などの対応を行っています。社長がこの場に來ることができないのは申し訳ありませんが、原子力部門の責任者として原子力立地・本部の副本部長である小森が出席しています。

ご質問：柏崎刈羽原子力発電所は本当に大丈夫なのか。【刈羽会場】

回答：ご心配をかけて、申し訳ありません。今回の震災以降、津波に対して何が足りないのかを考えてきましたが、その結論として15mの津波を想定し、原子炉と使用済燃料プールの燃料を破損なく冷却できるよう対策を進めています。電源車の配備などを行うとともに、追加の対策として防潮堤の設置などを行ってまいります。

ご質問：広報誌ニュースアトムの内容は、新聞を取っていない人にはどう周知しているのか。【刈羽会場】

回答：ニュースアトムは当社PR館（サービスホール、エネルギーホール、カムフィー、きなせ）に配備しており、さらにホームページなどもご覧いただけます。

【ホームページ】 <http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/info/tohoku/newsatom-j.html>

ご質問：原子力のコストが一番安くないと聞いたが。【刈羽会場】

回答：火力発電などに比べて燃料のウランの価格が安定していることから、これまで原子力発電はコストが低いとされています。ただし、事故の収束に向けた費用等は今後の課題と考えています。

ご質問：情報が多く、東京電力や国などの役割など、どれが本当なのかわからない。【刈羽会場】

回答：説明する内容が多岐にわたり、それぞれの立場で説明してきましたが、4月末からは国と当社で合同記者会見を行っています。これからも連携を密にして行ってまいります。

ご質問：発表が二転三転しているが、隠しているのではないか。【刈羽会場】

回答：厳しいご指摘と受け止めます。情報公開について足りないというご意見を真摯に受け止めて反省し、今後対応してまいります。

ご質問：社長が3号機を年内に運転再開したいと言ったことについて、会社の体質が変わっていないとを感じるが。【柏崎会場】

回答：耐震強化工事中の2～4号機は震災以降、安全関係の審査などを中断している状況です。社長も同じ考えですが、工程ありきということはまったくありません。一つずつ着実に進め、その状況についてご説明した上でご審議いただいた後に、成果がついてくると考えています。

ご質問：社長が「風土をあらためていかなければならない」と言ったが、風土とはなにか。柏崎会場

回答：残すべきものが「チームスピリッツ」で、変えていくものが「風土」と申し上げたと理解しています。組織をあげて事にあたることはこれからも続けていくべきであり、社会の声を聞き、会社として前へ進むという風土を作り上げていくということが極めて大切だと考えています。

ご質問：脱原発のシナリオを決めるべきだ。柏崎会場

回答：日本のエネルギー政策の問題であり、国が中心となって議論されています。その際に重要なのはベースロードをどの電源で賄うのかということです。大量・計画的・リーズナブル・安全、これらをすべて満たすものがベースロードとなるべきもので、その観点から今は原子力は重要だと思っています。いずれにしても安全に全力を尽くしてまいります。

ご質問：柏崎刈羽で万が一の時、ホットラインはどのようになっているのか。柏崎会場

回答：柏崎市内のオフサイトセンターがホットラインになります。ただし、今回の福島の状態を鑑みまして、改善が必要な部分はしっかりと考えていきたいと思えます。

ご質問：(上記と関連して) 情報公開の方法はどうするのか。柏崎会場

回答：オフサイトセンターがしっかり機能することが基本だと考えています。柏崎刈羽では新潟県中越沖地震の時に、情報発信に足りない部分があったと反省しており、しっかりと情報を出していきたいと思えます。

ご質問：柏崎刈羽原子力発電所2, 3, 4号機の今後の稼働についての考え方はどうか。

柏崎会場 (未回答)

回答：2～4号機は震災以降、耐震安全性評価の審査などが中断している状況です。いずれも、今後の稼働について申し上げる状況ではないものと認識しています。

ご質問：柏崎では水素爆発の危険はないか。柏崎会場 (未回答)

回答：水素は原子炉内の水と、燃料の被覆管(ジルカロイ)が高温状態で反応して発生するものであり、今回の緊急対策によって冷却機能は確保され、燃料が高温になることを防止できるため、水素が発生することはなく、爆発に至ることはないと考えています。また、万一水素が発生した際も、今後設置する原子炉建屋トップベント設備により、外へ排出します。

ご質問：使用済燃料の別管理はできないか。柏崎会場 (未回答)

回答：使用済燃料は国の方針として再処理することとしており、青森県六ヶ所村にある再処理工場へ搬出するまでは、原子炉建屋内の使用済燃料貯蔵プールで安全に保管しています。現在のところ、柏崎刈羽原子力発電所においてはその他の方法で保管することは予定していません。

ご質問：原発はCO<sub>2</sub>の排出量が少ないクリーンエネルギーと言われているが、今回のような大事故が発生した場合、とてもクリーンとは思えないが、いかがと考えるか。柏崎会場 (未回答)

回答：原子力発電は安全に運転すれば、CO<sub>2</sub>の排出量が少ないエネルギーだと考えています。そういう意味でも全力で安全を確保することが、私どもの努めだと考えています。

ご質問：柏崎の原発を廃炉にして、代替を関東・東京に作るべき。柏崎会場（未回答）

回答：柏崎刈羽原子力発電所では、想定を超えた津波への対策を取るなど、安全安心を第一に、今後も運転を継続してまいります。

ご質問：現場の声を安全対策につなげる仕組み・システムになっているのか。柏崎会場（未回答）

回答：発電所では「目安箱」のような投書にも答える仕組みや、企業協議会など構内の協力企業と情報を共有し、解決する仕組みなどを通じて、現場の声を取り入れるように努めています。

ご質問：自然エネルギーが盛んに叫ばれているが、原発なしに賄えるのか。柏崎会場（未回答）

回答：太陽光や風力などの自然エネルギーは、雨の日や風のない日は発電できないなど、天候等に左右される問題があります。また、多大な建設コストや膨大な敷地面積が必要となります。

ご質問：地震の被害状況を市民にどのように伝えるのか。特に防災無線が使えない場合など。

柏崎会場（未回答）

回答：発電所からは直接、あるいは本店経由など様々な通信手段を有しています。これらを通じて、オフサイトセンターや報道機関へ情報提供させていただきます。従って、防災無線がない場合でも、他の手段でお伝えできるものと考えています。

さらに、所内の広報車を用意するなどにより、緊急時に発電所の状況を直接お知らせすることを考えています。

以上